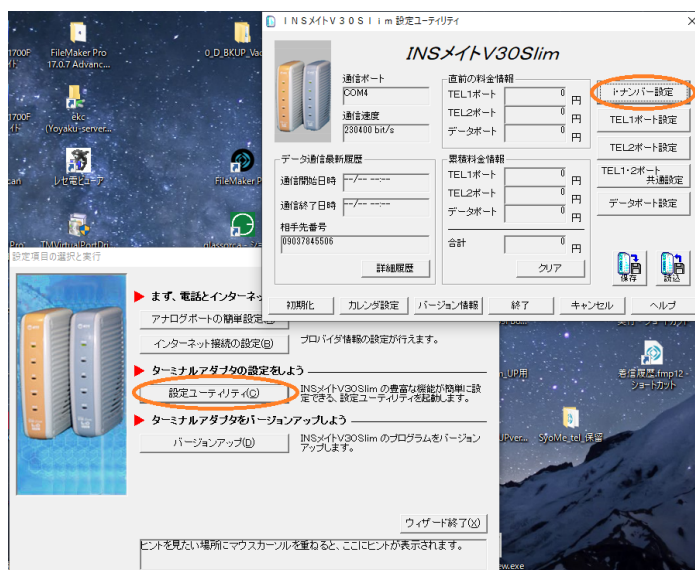
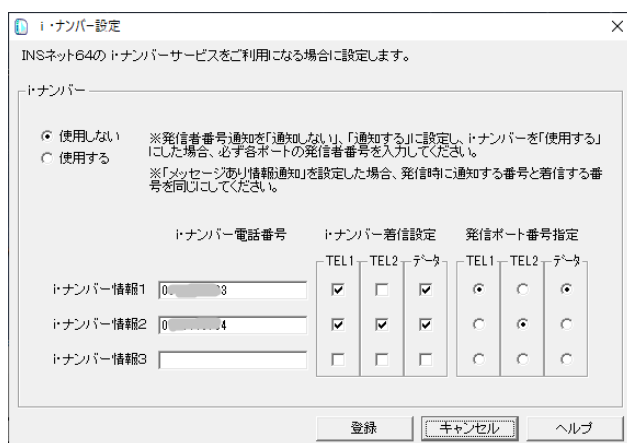


INS メイト V30Slim の INS メイ V30Slim イージーウィザードを開き、(図 2)のように設定ユーティリティ
> i・ナンバー設定を押します。

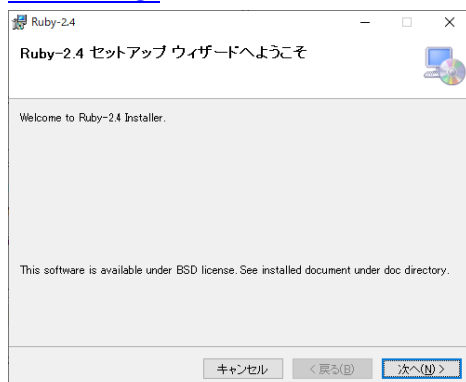


(図)が現れます。設定例

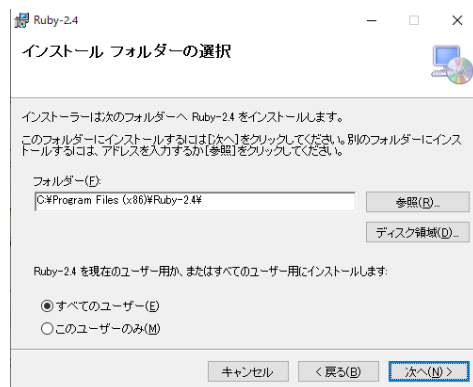


Ruby の準備

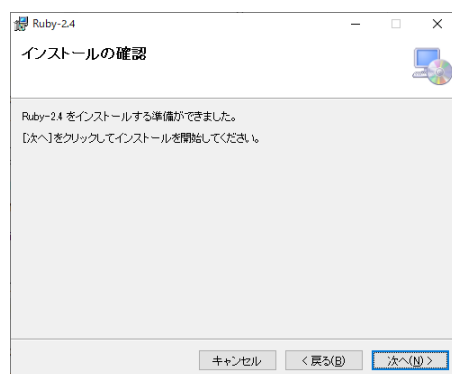
はじめに Ruby のシリアル通信「wincom」を使用可能にするため、64 ビット版ではなく、同梱の 32 ビット版の Ruby-2.4.msi を開きます。 [ActiveScriptRuby and Other packages \(artionx.org\)](http://artionx.org)



次へ

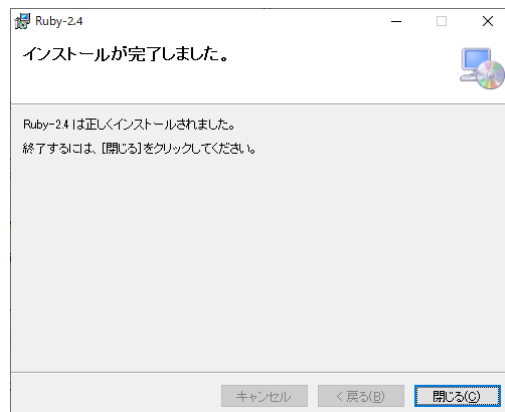


そのまま次へ

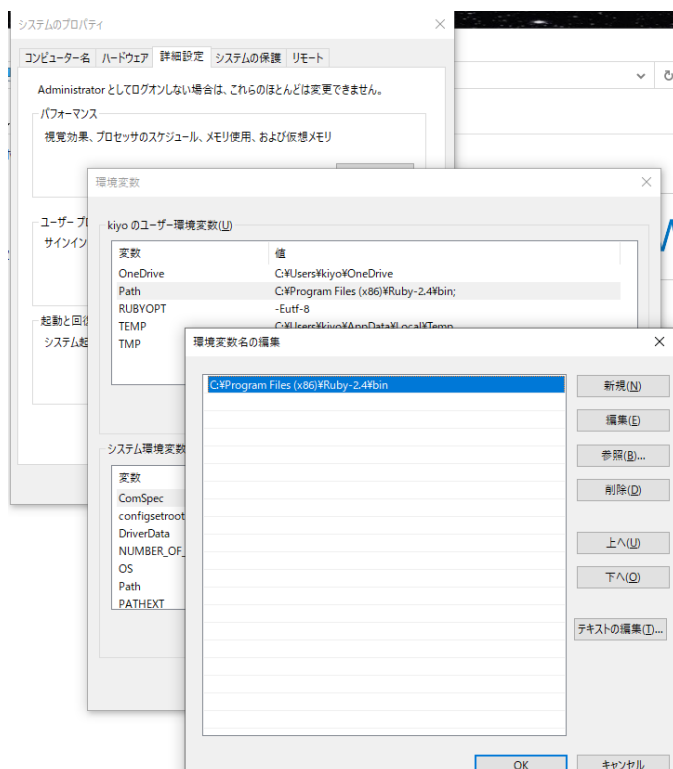


次へ

ユーザーアカウント制御でアラートが出ますので「許可のはい」を選択します。



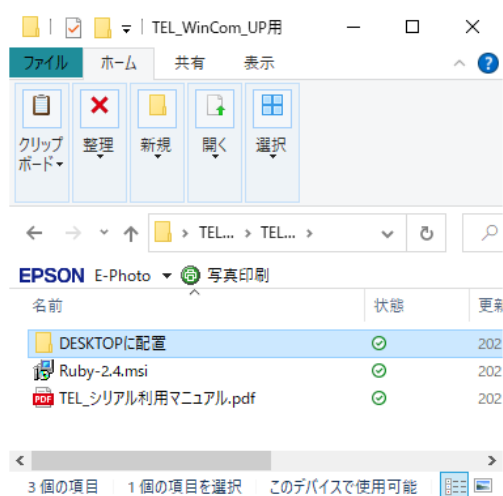
閉じます。環境変数で



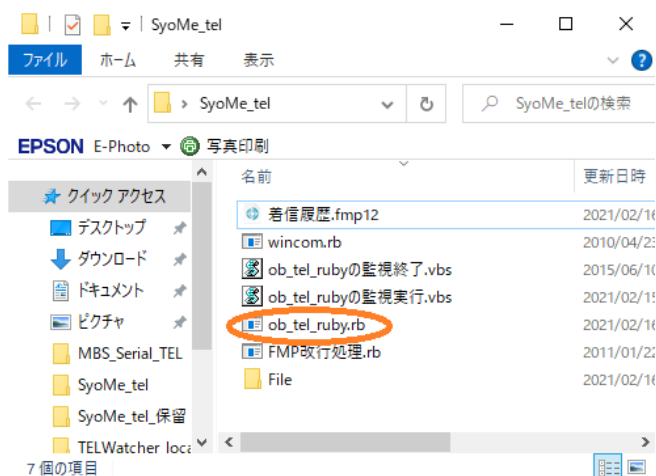
ユーザー変数のパスに Ruby-2.4 の ruby.exe のある場所 C:\Program Files (x86)\Ruby-2.4\bin を選択しておきます。

ファイルの準備

ダウンロードファイル「TEL_WinCom_UP用.zip」を展開します。



「DESKTOP に配置」フォルダの中の「SyoMe_tel」フォルダをデスクトップにコピーします。



ob_tel_ruby.rb をメモ帳などで開きます。

2 カ所修正をお願いします。

```

ob_tel_ruby.rb - メモ帳
ファイル(F)  編集(E)  書式(O)  表示(V)  ヘルプ(H)
#l:/usr/bin/ruby -Ks

require './wincom'
require 'tempfile'#出力したデータをファイル化するのに使用
require 'win32ole'

comp1 = Serial.new

ir = comp1.open(4,0x1807,9600,7,2,0,256,256)#先頭の (x,... のxは150Nからの受診送信するCOMポート

#send folderにファイルがあれば発信、何もなければ着信待ち受け

Dir.chdir('C:\Users\Wkiyo\Desktop\SyoMe_tel')#実際のディレクトリに書き換える
p "Open Receive mode"

$FMDoc_onoff = "off"#FMDocがあるとアラートがでるため準備
  
```

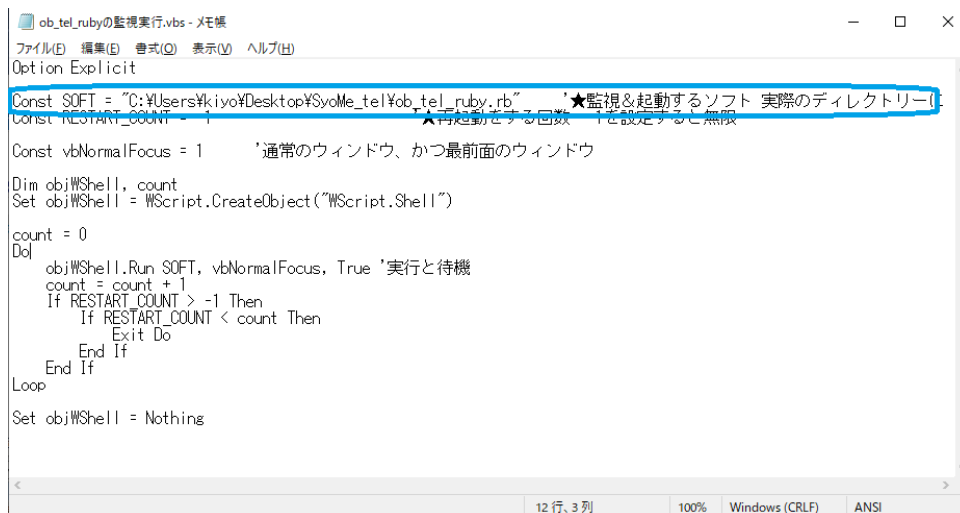
(1 カ所目)

ir = comp1.open(4,0x1807,9600,7,2,0,256,256)の4は COM ポート番号でターミナルアダプタの接続の COM ポート番号を記載

(2 カ所目)

Dir.chdir('C:¥Users¥Wkiyo¥Desktop¥SyoMe_tel')を実際のディレクトリに書き換えてください。

フォルダ内の VBS スクリプトは何かの都合で「ob_tel_ruby.rb」が落ちてしまったときに再起動するものです。必要あれば「ob_tel_ruby の監視実行.vbs」の



```
ob_tel_rubyの監視実行.vbs - メモ帳
ファイル(F)  編集(E)  書式(O)  表示(V)  ヘルプ(H)
Option Explicit

Const SOFT = "C:\Users%kiyo\Desktop%Syome_tel%ob_tel_ruby.rb"  ★監視&起動するソフト 実際のディレクトリに
Const RESTART_COUNT = -1  ★再起動する回数 -1を設定すると無限

Const vbNormalFocus = 1  '通常のウィンドウ、かつ最前面のウィンドウ

Dim objWShell, count
Set objWShell = WScript.CreateObject("WScript.Shell")

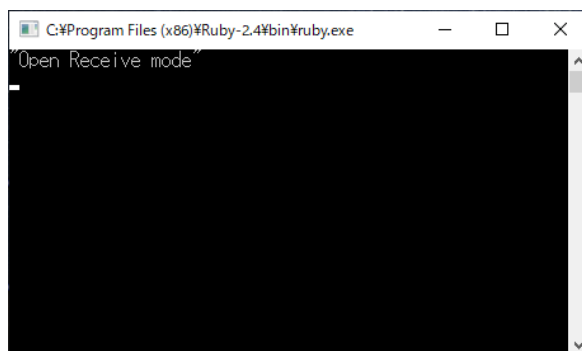
count = 0
Do
    objWShell.Run SOFT, vbNormalFocus, True '実行と待機
    count = count + 1
    If RESTART_COUNT > -1 Then
        If RESTART_COUNT < count Then
            Exit Do
        End If
    End If
Loop

Set objWShell = Nothing
```

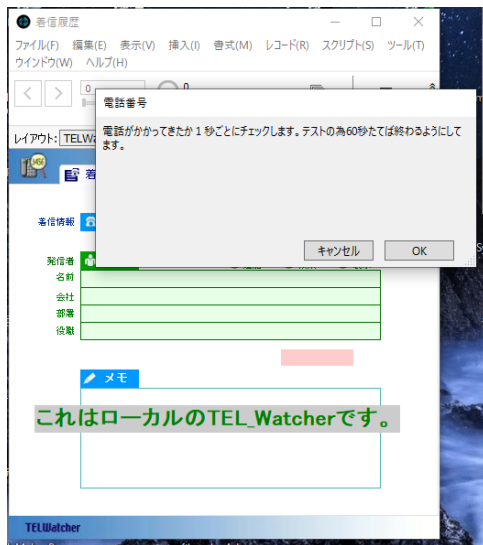
の部分を実際のディレクトリに変更してください。これを実行するとウインドウを閉じて
もまた立ち上がりますので、処理を止めるには「ob_tel_ruby の監視終了.vbs」をダブルクリ
ックお願いします。

使い方

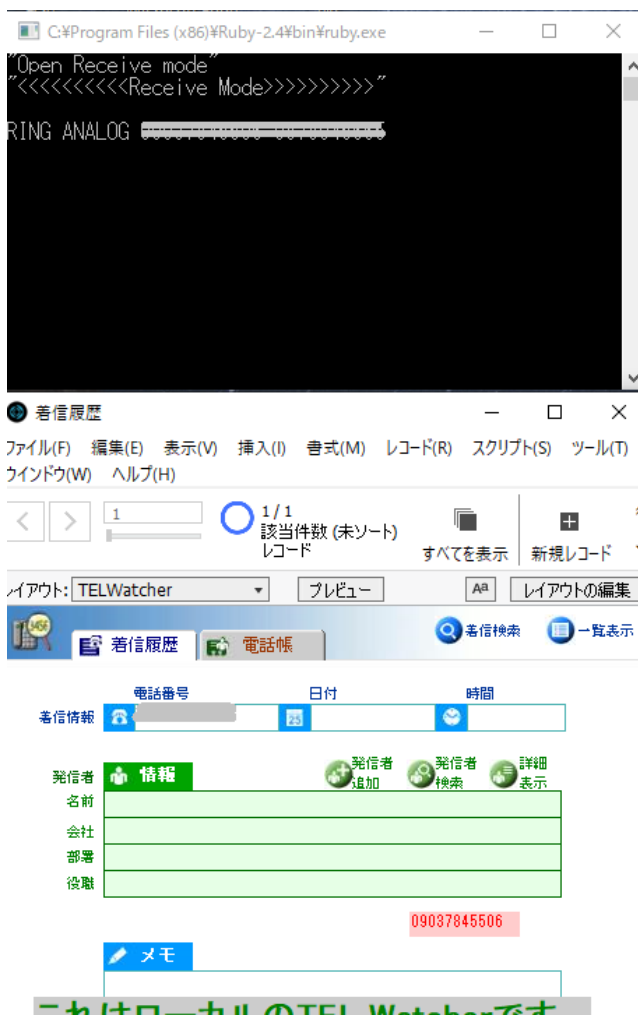
「ob_tel_ruby.rb」を開いてください。



それから「着信履歴.fmp12」を開きます。

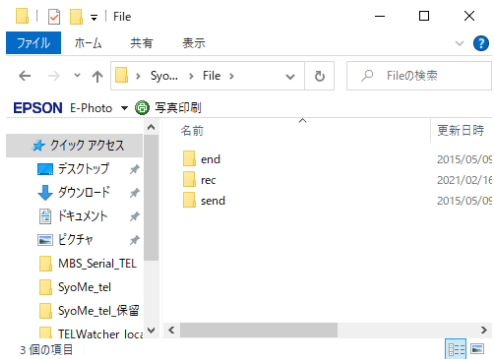


テスト使用ですので、ループで 60 秒間電話を待つ使用になっています。
60 秒の間に電話をかけると



コマンドラインに電話番号が、またその電話番号をしたの FileMaker で取っています。

「File」フォルダを開けると



「end」「rec」「send」フォルダが有ります。

ob_tel_ruby.rb によりシリアル通信で電話番号を「rec」フォルダ内に telnum.txt として取り、着信履歴.fmp12 のスクリプト「電話取り込み」をループ処理させることにより電話番号を FileMaker 側に取り込みます。実際は電話番号取り込みの所に必要な情報にたどり着けるようにスクリプトを追加します。

今回検証していませんが、「send」フォルダに AT コマンドを記載したテキスト「sendtext_moto.txt」入れると電話も発信出来るようになると思います。